水田作

ほ場管理システム及び自動給水栓の導入による ほ場管理の適正化及び経営の効率化

経営体の概要

・所在地：新潟県上越市柿崎区
・経営体名：(株)ふるさと未来
・栽培作物：水稲51.5ha、えだまめ10.9ha、ブロッコリー4.1ha、ミニトマト7.5a
・従業員数：7名（令和６年５月）

導入技術

・ほ場管理システム「未来ファームMINORI」
ほ場単位での農作業計画や実績、投入資材、品質・収量などに加え、自動給水装置や園芸ハウス等色々な管理についても対応できる拡張可能なシステム。

・自動給水装置「MIHARU」（MINORI上でほ場ごとに管理）
給水栓に取り付けることにより、スマートフォン等で遠隔地からバルブの開閉作業や水位設定が可能となる。

写真：ほ場データに基づくミーティングの様子（(株)ふるさと未来）

導入経緯

○ 規模拡大や若手従業員の雇用に伴い、作業を行うほ場や作業指示の間違い防止の徹底を図る必要が生じてきた。
○ そこで、ほ場管理システム（H29）と自動給水装置（H30）を上越ICT事業協同組合と共同開発。改良を加えた自動給水装置をR3から全ほ場に導入。

取組の特徴・効果

○ ほ場に設置したICタグをスマートフォンで読み取ることで、ほ場名、作業内容、作業担当者が表示され、作業するほ場の間違いを防止できる。
○ ほ場単位に作業の進捗状況が表示され、従業員へのスムーズな指示が可能。
○ ほ場単位に労務や農薬・肥料などの資材コストの把握と生産量・売上が自動集計されるため、収支実績の確認が容易。
○ 農薬・肥料の使用時期や量などの情報に基づき、栽培から出荷までのトレーサビリティにも対応可能。当該システムによるほ場管理記録を活用し、GLOBALGAPを取得（平成31年３月）。
○ 年間を通しての作業が"見える化"でき、若手従業員の育成に効果が期待できる。